

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.1(2025年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『ミアキス・シンフォニー』 加藤シゲアキ

アイドルグループNEWSのメンバーでもある作者の最新刊は、じつは女性向けファッション雑誌『an・an』に2018年から2022年に連載された連作短編小説。すっかり「作家」としてもキャリアを積んだ作者が今読み返してみると、「全然ダメだ」と思える箇所が多く、大幅に書き直して足かけ7年で完成させた小説なのとか。

ちなみにタイトルの「ミアキス」とは犬やネコの共通の祖先にあたる動物。この小説にそれがどう関係してくるのか・・・

『月収』 原田ひ香

目次のページを読むと、ずらりと月収を並べた文字が目に入ります。「第1話 月収四万の女 乙部響子(66)の場合」「第2話 月収八万の女 大島成美(31)の場合」・・・最初の月収四万とは、年金なのです。あまりに少ない収入なので、彼女は娘に買ってやるルイボスティーのサイズ選びさえも躊躇するのですが、第五話では株式投資をやっている月収300万の女も登場します。そんな「お金」をめぐる人間模様を描いた、ヒット作『三千万の使いかた』の作者による最新作です。

『それでもなぜ、トランプは支持されるのか:アメリカ地殻変動の思想史』 会田弘継

トランプ氏がアメリカ大統領に再選されました。「不倫口止め料支払事件」など、普通の政治家なら一発退場ものの言動を何度も繰り返しながらも、経済力世界一の国のトップに民主的な選挙で選ばれる。これはもう、学問として十分に研究対象となる「謎」です。筆者はこの謎について「貧しい人々の豊かな人々への敵意のあらわれ」といった経済面や「オバマ政権時代の失敗」といった政治面などから詳しく分析しています。ご一読を。

『報道しないメディア ジャニーズ性加害問題をめぐって』 喜田村洋一

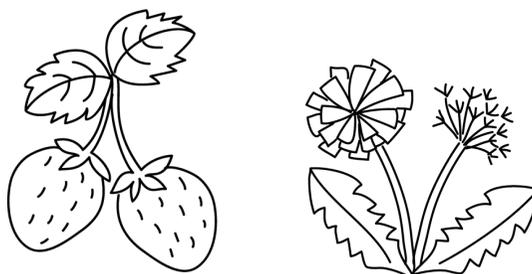
かつて日本の芸能界に大きな影響力を持ち、その所属タレントをテレビで見ない日はなかったジャニーズ事務所。2023年に事務所の創業者・故ジャニー喜多川によるタレントらの性加害が報道され、事務所は解散になりました。しかし、なぜ何十年もの間、ジャニー氏による性加害は報道されなかったのか。メディア裁判の代表的弁護士が、この謎に迫ります。

『シン読解力: 学力と人生を決めるもうひとつの読み方』 新井紀子

「国語は得意なのに数学はどうも苦手」とか、「高校生になってから成績が伸び悩んでいる」という方に朗報です。この本の著者によれば、それは「教科書を読み解く読解力=シン読解力」が不足しているそうです。シン読解力は、才能や地頭に関係なく、誰でもトレーニングで伸ばせるのだとのこと。勉強で悩んでいる人は、一度この本を手にとってみては?

『隼人の実像 —鹿児島人のルーツを探る—』 中村明蔵

じつは鹿児島県民のDNAは、他の県民とは少し違うのをご存知でしたか? かつて存在した異民族・隼人(はやと)が住んでいたのが鹿児島県で、そのDNAが残っているのです。8世紀に、米作に適さない火山灰の土地に米の年貢を強要した朝廷に対して彼らは戦をしかけました。しかし長期の戦闘もむなしく隼人は敗れ、やがて彼らは日本人に同化していったのです。神話の「海幸山幸」にもつながるこの本、ぜひ手に取って下さい。



『大阪・関西万博ぴあ』

これまで、マスコミやネットではネガティブな情報を見ることが多かった、大阪万博。でも「実際にはどんなものが見られるの?」という報道が少なかったので、行く予定のある方やご興味のある方は、この本で下調べして下さい。カラー写真満載で、見どころやイベント・グルメガイドを読めますよ。

『今日もネコ様の圧が強い』うぐいす歌子

イヌは飼い主のことを「ご主人さま」と思っている感じですが、ネコってそうではないですよ。むしろ「オレ様が人間のご主人だ」というような振る舞いをする事すらありますが、ネコ好きにはそこがまた可愛いもの。元海上自衛隊員という異色の経歴を持つ漫画家・うぐいす歌子氏が「X」にネコ漫画を毎週投稿したところ、大人気になってこの本が誕生しました。本屋で発売後すぐに重版決定するほどのベストセラーです。

『ちょこっとピラティス』 横幕真理

女優の今田美桜さんやフィギュアスケートの羽生結弦さんも実践している、新しいエクササイズ「ピラティス」。ヨガにも少し似ているこの運動は、「1日5分」という超短時間でも効果が期待でき、この本の題名通り「ちょこっとピラティス」が忙しいあなたにもぴったりです。シェイプアップなどの美容効果のほか、肩こりや猫背・O脚にも効きますし、またイライラや集中力不足などのメンタル面にも効果的だそうです。

今号のひとこと

People are always blaming circumstances for what they are. I don't believe in circumstances. The people who get on in this world are the people who get up and look for the circumstances they want, and, if they can't find them, make them. ※
多くの人は、自分の置かれた境遇に対していつも不平を言っている。私は境遇など信じない。成功する人は、立ち上がって自分の望む境遇を探し、それが見つからない場合は自分でその境遇を作り出す者なのだ。

ジョージ・バーナード・ショー (1856-1950)

ショーは、劇作家としてはシェークスピアに次ぐ作家と英国ではみなされています。あなたもショーのように、自分自身の手で自分を高めていってみませんか。

※『ウォレン夫人の職業』より。